

2008

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

(綾の照葉樹林プロジェクト)

平成 20 年度事業報告書



綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

(財) 日本自然保護協会・てるはの森の会

報告書発刊にあたって

照葉樹林復元プロジェクトの報告書が一般の人にも分かり易い形で提出されるに至るまでには、確実な歩みがありました。

計画が持ち上がったのは 2004 年の 10 月でした。九州森林管理局から話し合いをしたいという申し出が、現在のてるはの森の会にあり、早速話し合いに入りました。九州森林管理局の説明によると、群馬県の谷川岳の西南の赤谷国有林に、全国初の大プロジェクトが誕生したが、第 2 番目の計画として綾の照葉樹林を検討したいというものでした。私たちは綾を核として照葉樹林回廊構想を提起していた時でしたので、よいしょとばかり相談にのり、九州森林管理局、宮崎県、綾町、(財)日本自然保護協会、てるはの森の会の 5 者による検討会が生まれました。利害が一致していましたので、トントンと話が進み 2005 年 5 月に調印式を行い、計画づくりに入りました。

世界的に森林を機能別に分類し、保護・保全と経済的利用、そして人間との共生の場を保証する森林原則が承認されていたので、その機能別森林区分の設定と施行のあり方の検討に入りました。これも順調に進み、約 1 万 ha の対象地に 11 区画の森林機能を設定いたしました。設計図は 2007 年に完成しました。08 年から実現のための実施に移りました。掃部岳の曾見川筋の人工林の復元は森林管理局の森林施業計画で行われだし、てるはの森の会はボランティアでの間伐作業、(財)日本自然保護協会は林床調査と間伐方式・シカ対策研究。綾町は「郷土の森」として吊橋からみえる森林の教育的利用、川中神社から綾北川に及ぶ大森岳稜線部分の「森林生態系保護地域」指定調査等々、一斉に動き始めました。

その甲斐あって、「綾森林生態系保護地域」の設定が決定され、森林セラピー基地が「てるは郷土の森」と重なり、森林管理局の施業は年間 100ha の復元事業、てるはの森の会はボランティア間伐とガイド養成、(財)日本自然保護協会は、「ふれあい調査」による地域住民の地域・森への伝統的関わり認識等々、目にみえる形での成果が出てきました。

しかし、最初から気がかりであった綾町民の盛り上げりの問題がありました。プロジェクトの大きな目的として、地域振興があります。この地域作りのために、町民参加のワーキンググループを作り、意識の高揚につとめ始めました。目の前の森林まで国有林で、綾町には県北に見られるような里山利用の伝統はなく、国有林野事業と町民の生産と生活は遊離してきていました。町は河野耕三先生を専門監として採用し、里山運動を起こしました。ワーキング委員も次第に意識が高くなりました。ふれあい調査では、対象の地区の人に伝統の有難さを痛感してもらっています。ようやく町民の意識が高くなってきました。この官民学のプロジェクトは、全国的にも知られるようになり、綾と協働歩調をとりたいという要求まで出てきて、綾を核とした「照葉樹林サミット」を開こうという誘いが、他の自治体、団体からでてきている所です。

2009 年 6 月

綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会（てるはの森の会）代表

上野 登

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 20 年度事業報告書目次

報告書発刊にあたって	・・・・・・・・・・ 1
------------	--------------

目次	・・・・・・・・・・ 2
----	--------------

< 森林管理局 >

1. 照葉樹林復元のための林床の植生動態調査	・・・・・・・・・・ 4
2. 綾川流域の回廊モニタリング調査・希少動植物等分布調査	・・・・・・・・・・ 5
3. 希少動植物等分布調査	・・・・・・・・・・ 6
4. 照葉樹林への保護・復元に関する情報収集・活用設計調査調	・・・・・・・・・・ 7
5. 綾の照葉樹林帯における文化・歴史に関する調査	・・・・・・・・・・ 8
6. 綾川流域におけるニホンジカの生息数・被害状況把握手法検討調査	・・・・・・・・・・ 9
7. ボランティア見本林の整備	・・・・・・・・・・ 10
8. 人工林から照葉樹林への復元事業	・・・・・・・・・・ 11
9. 調査事業に関する報告会	・・・・・・・・・・ 12
10. 「綾森林生態系保護地域の説明版」制作・リーフレット作成	・・・・・・・・・・ 13
11. 「森林の市」への出展参加	・・・・・・・・・・ 14
12. ホームページの充実	・・・・・・・・・・ 15

< 宮崎県 >

1. 県有林造成事業	・・・・・・・・・・ 16
2. 人工林から照葉樹林への復元作業	・・・・・・・・・・ 17
3. 森林環境教育	・・・・・・・・・・ 19

< 綾町 >

1. 照葉樹林文化シンポジウム運営補助	・・・・・・・・・・ 20
2. 照葉樹林環境教育講座	・・・・・・・・・・ 21
3. 自然散策道路の整備	・・・・・・・・・・ 22
4. 森林セラピー基地整備事業	・・・・・・・・・・ 23
5. 生涯学習講座	・・・・・・・・・・ 24
6. 町有林の保護復元に伴う基礎調査	・・・・・・・・・・ 25

< (財) 日本自然保護協会 >

1. ふれあい調査の実施	・ ・ ・ ・ ・ 26
2. 調査研究ワーキングの準備	・ ・ ・ ・ ・ 27
3. 綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査	・ ・ 28

< てるはの森の会 >

1. 環境学習事業	・ ・ ・ ・ ・ 29
2. 照葉大吊橋 ビジターセンター運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 30
3. プロジェクト事務局運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 31
4. 普及啓発業	・ ・ ・ ・ ・ 32
5. 照葉樹林研究フォーラムの開催	・ ・ ・ ・ ・ 33
6. 地域づくりワーキングの設置と運営	・ ・ ・ ・ ・ 34
7. 照葉樹林文化館活用に関する市民協働会議の設置と運営	・ ・ ・ ・ ・ 35

参考資料

< 新聞記事 >

1. 世界遺産登録へ期待 (宮日 08.4.13)	・ ・ ・ ・ ・ 36
2. 「綾の森」保護地域に (日経・西日本 08.4.13)	・ ・ ・ ・ ・ 37
3. 照葉樹林を守れ 綾でシンポジウム (宮日・西日本 08.6.3)	・ ・ ・ ・ ・ 38
4. 森の楽しさ知って 綾町が里山作り計画 (宮日 08.6.18)	・ ・ ・ ・ ・ 39
5. 綾の森 住民で守ろう 作業部会が発足 (宮日 08.6.22)	・ ・ ・ ・ ・ 40
6. 自然との融合評価 綾で照葉樹林フォーラム (宮日 08.6.27)	・ ・ ・ ・ ・ 41
7. 照葉樹林生かし地域活性化 (宮日 08.7.16)	・ ・ ・ ・ ・ 42
8. 「綾の森」世界遺産に 別府大 100 周年で講演 (宮日 08.8.11)	・ ・ ・ ・ ・ 43
9. 祖国の森再生 綾で研修 (宮日 08.10.11)	・ ・ ・ ・ ・ 44
10. 綾の照葉樹林満喫 ガイド付きツアー始まる (宮日 08.11.9)	・ ・ ・ ・ ・ 45
11. 企業・社会貢献の場に 間伐など体験ツアー好評 (宮日 08.11.25)	・ ・ ・ ・ ・ 46
12. 町民説明会に 50 人が参加 (宮日・西日本 08.12.06)	・ ・ ・ ・ ・ 47
13. 綾の森「大きく育て」里山復元へ 2200 本植樹 (宮日 09.2.8)	・ ・ ・ ・ ・ 48
14. 森と人の遍歴知って 綾町などの写真集製作中 (宮日 09.2.20)	・ ・ ・ ・ ・ 49
15. 自然と共生 600 人誓う 綾で公民館大会 (宮日 09.2.20)	・ ・ ・ ・ ・ 50
16. 展示リニューアルへ 綾・照葉樹林文化館 (宮日 09.3.11)	・ ・ ・ ・ ・ 51

事業名	照葉樹林復元のための林床の植生動態調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	てるはの森の会 N A C S - J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内には人工林や天然更新による二次林があり、これらの区域について、照葉樹復元への効果的な手法を得るため、人工林の照葉樹林化植生動態調査及び照葉樹二次林の原生照葉樹林化植生動態調査を実施。		

1．人工林の照葉樹林化植生動態調査

人工林の照葉樹林への復元計画の検証と今後の復元活動を継続する際の検討資料を得ることを目的として、間伐等実施地と未間伐地のプロットを設定し植生動態を調査し、間伐実施地では木本類の発生が増加した、未間伐地では樹種構成や下層植生に大きな変化は見られない等の結果を得た。

また、人工林に接する保護樹帯から一定距離間隔の調査区を設け後継樹の生育状況を調査し、間伐等実施地、未間伐地ともに、保護樹帯の近接箇所では照葉樹の種類・個体数が多く、離れるほど少なくなる傾向が見られた、重力散布形式の樹種が保護樹帯に近いほど多かった等の結果を得た。

2．照葉樹二次林の原生照葉樹林化植生動態調査

過去に伐採された地区で照葉樹が再生した二次林を対象に、原生照葉樹林に復元するための検討資料を得ることを目的として、植生調査を行った。その結果、いずれのプロットも株立ち木が目立ち、高密度の林分を呈し順調な成長が見込まれ、シカの食害がない場合は自然の遷移にまかせることで照葉樹林の復元が図れると推察された。



人工林伐開列の稚樹生育状況。
(シダモ、ユズリハ外)



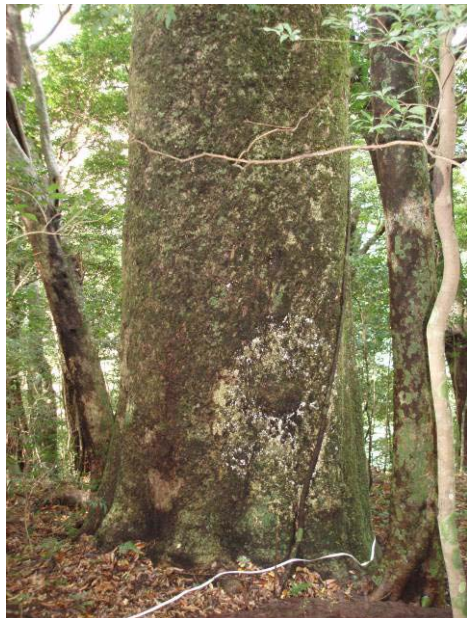
二次林の林内状況

※ 重力散布形式の樹種：カシ、シイ等で実が重力により落ちて種子が散布される樹種。

事業名	綾川上流域緑の回廊モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	「綾川上流域緑の回廊(エリア3・5)」における照葉樹林への復元事業を野生動植物の生息・生育環境の保全整備と調和して行うためには、森林の状態とそこに生息・生育する野生動植物の実態を把握することが重要である。そのため、それらの関係を明らかにすることを目的として、以下のモニタリング調査を実施。 1 森林配置図の作成 2 森林植生調査(4箇所) 3 哺乳類・鳥類生息調査(4箇所) 4 希少猛禽類モニタリング (プロジェクトエリア内)		
空中写真を判読し、成熟した天然林等森林のタイプを区分した森林配置図を作成した。これを基に、①成熟した天然林(イチイガシ・ウラジログシ林)、②成熟した人工林(87年生ヒノキ人工林)、③成熟した天然林(ヤブニッケイ、ホソバタブなどの照葉樹林)、④若齢の人工林(22年生ヒノキ人工林)の4箇所にプロットを設置し、森林植生調査並びに哺乳類及び鳥類の生息調査を実施した。哺乳類は自動撮影調査及びフィールドサイン調査を、鳥類はプロットセンサス調査を実施した。その結果、ホンドテン、ニホンアナグマなど9種の哺乳類とコシジロヤマドリやリュウキュウサンショウクイなど31種の鳥類を確認した。 希少猛禽類のモニタリング調査では、プロジェクトエリア内に1個体のイヌワシと少なくとも13個体、4ペアのクマタカの生息を確認した。			
			
調査風景		コシジロヤマドリ (自動撮影調査)	
			
クマタカ (成鳥)		クマタカ (幼鳥)	

※ フィールドサイン調査：個体の直接観察や痕跡観察により、生息状況を把握する調査

※ プロットセンサス調査：調査区域内にランダムに観察区画を設定し、一定時間内に観察された種類を記録する調査

事業名	希少動植物等分布調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	てるはの森の会 NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内での野生動植物の詳細な生息・生育に関する情報の蓄積を進め、適切な照葉樹林の保全を推進するため、希少野生動植物に関する知見・情報を収集する。 文献調査、聞き取り調査及び現地調査等により、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内の植物及び昆虫、大径木の生息・生育状況について整理・把握。		
希少動植物の生息・生育状況について文献調査及び聞き取り調査を行い、その結果、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内の、多種の希少な昆虫、植物の生息・生育情報が得られたが、詳細な調査はあまり行われておらず、分布情報を把握するためには、今後、詳細な現地調査を行う必要があることが分かった。 大径木の分布状況については、空中写真を用いて、大径木の密度が高い区域を抽出することができた。そのうち、川中神社周辺、大森岳周辺、式部岳周辺の3箇所の現地調査を行い、91本の大径木（胸高直径1m以上）の位置情報を得ることができた。また、大径木の多くには、着生植物が見られ、6種の絶滅危惧種も確認された。			
			
最大樹高（39m）イチイガシ （川中神社周辺）		最大径（172cm）タブノキ （川中神社周辺）	

事業名	照葉樹林への保護・復元に関する情報収集 ・活用設計調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクト内の人工林をより確実により早く目標とする照葉樹林に復元することを目的として、照葉樹林の保護・復元に関する情報の収集・活用のための設計調査を行う。		
「照葉樹林への保護復元に関する情報収集活用設計検討委員会」を開催し、当該委員会において、復元方法を検討する際に必要となる間伐個所の自然環境、間伐方法や集材方法等に関する情報を整理し、情報の有無や調査の実施状況について明らかにした。 また、収集した情報をデータベース化し関係者が活用できる情報共有システムに関する企画案を作成した。			

事業名	綾の照葉樹林帯における文化・歴史に関する調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	N A C S - J
事業概要 (目的)	近年の生活様式の変化に伴い、地域と照葉樹林との関わりが稀薄となり、プロジェクトの目的・意義等が地域に浸透しにくい状況にあるプロジェクトのさらなる推進を図るため、プロジェクト区域等における照葉樹林と人との文化的な関わりや照葉樹林の利用の歴史等について調査し、とりまとめて普及啓発用に活用。		
綾の照葉樹林プロジェクトエリア及びその周辺を調査対象地域とし、以下の項目について文献聞き取りにより調査し、とりまとめて普及啓発用に活用する。			
① 自然環境（地形・地質土壌、気象、植生、動物） ② 社会環境の変化（集落、人口、交通、産業・生活、歴史的变化） ③ 照葉樹林の生い立ち（地誌的変遷、植生構造の変化） ④ 国有林の変遷（島津氏による山林経営、国有林の沿革）や、国有林での生産活動（製品事業、森林鉄道、森林施業及び林産物） ⑤ 照葉樹林と人との伝統的文化的関わりと歴史（照葉樹林文化、照葉樹林と人の生活） ⑥ 遺跡・旧跡等の概要（遺跡・史跡、民族・風習・芸能）			
			
綾の山中を走っていた機関車		綾北川沿いに祀られている山の神	
			
室町期の建立とされる川中神社の阿弥陀如来堂		長女の誕生を祝い江戸時代に始まったとされる雛山	

事業名	綾川上流域におけるニホンジカの生息数・被害状況把握手法検討調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	てるはの森の会、 NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内に生息するニホンジカの生息数とそれによる植生被害の状況を調査するとともに、これら調査の結果に基づき生息環境と被害林分との関係調査を実施。		

1 生息数調査

糞粒調査、ライトセンサス調査の2方法によりニホンジカの生息数を調査。その結果、平均生息密度は、糞粒調査の場合16.9頭／km2、ライトセンサス調査の場合15.2頭／km2の推定値が得られ、比較的高い生息密度であることが分かった。

2 植生被害調査

10ヶ所プロットを設置し、その被害率は平均で18.3%(5,605本の木本類(52種)中1,033本)であった。また、いずれのプロットでも採食害が剥皮害を上回っていた。

3 生息環境と被害林分との関係調査

傾斜、斜面方位等との立地条件及び林相、林齢等の森林状態と、ニホンジカの生息密度、植生被害との関係をそれぞれ分析。その結果、いずれも両者に有意な関係は見られず、ニホンジカは立地条件や森林状態に関係なく生息し、採食害や剥皮害を与えていると考えられる。



糞粒調査



角研ぎによる剥皮害



ライトセンサス調査 (夜間のニホンジカ)

※糞粒調査：固定プロットで排泄された糞を数えて生息密度を推計する方法。

※ライトセンサス調査：林道上等からスポットライトを照射し、頭数を数えて生息密度を推計する方法。短時間で生息の有無が確認できる。

事業名	ボランティア用見本林の整備	実施主体	九州森林管理局
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	ボランティア用見本林(2045に4外)において復元伐等を実施した。		

平成20年11月15日、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内において、林内に生育している照葉樹の生長と稚樹の発生を促すための復元作業をボランティアにより実施した。

当日は、午前の部は東京から参加したNPO「木の家だいすきの会」と広く一般公募したボランティアの方々31名、午後の部は関西から参加した日本KFC・ピザハット事業部企画の体験ツアー親子と地元上畑地区の親子29名が参加した。

参加者のほとんどが木を伐るのが初めてで、復元作業の目的や安全作業の説明後、インストラクターの指導の下、作業を実施した。



開会風景



作業指導



作業風景 (午前)



作業風景 (午後)

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業	実施主体	九州森林管理局
		連携先	てるはの森の会 NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業等を実施した。		
	作業の内容	実 行 面 積	
	除 伐	1 3 . 2 4 ha	
	間 伐	3 5 . 9 7 ha	
	本数調整伐	1 5 . 0 4 ha	
	計	6 4 . 2 5 ha	
綾の照葉樹林プロジェクトエリア毎の復元作業内容			
1. エリア 2 (原生的な照葉樹林が分布するエリアで、エリア内の人工林を抜き伐りし照葉樹へ復元する作業を実施) ・ 除 伐 1 . 0 0 ha (2094へ)、 ・ 間 伐 3 5 . 9 7 ha (2091る外2)			
2. エリア 3 (保護林と保護林との間にあるエリアで、人工林を抜き伐りしかつての照葉樹林へ復元する作業を実施) ・ 除 伐 1 . 9 4 ha (2095ち2)			
3. エリア 5 (保護林と保護林との間にあるエリアで、人工林を抜き伐りしかつての照葉樹林へ復元する作業を実施) ・ 本数調整伐 1 5 . 0 4 ha (2142い5、ほ、る)			
3. エリア 9 (アクセスが良く、環境教育、セラピー的利用を目指すエリアで、人工林を抜き伐り照葉樹林へ復元する作業を実施) ・ 除 伐 1 0 . 3 0 ha (2052と)			
			
実施状況(2 1 4 2 い5)		実施状況(2 1 4 2 ほ)	

事業名	調査事業に関する報告会 (綾の照葉樹林プロジェクトの取組について説明)	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトへの理解と住民の参加の促進を図るために事業説明会等を実施。		

(1) 事業説明会を開催

1 2 月 2 日綾町高年者研修センターにおいて、第 2 回目の事業説明会を開催した。

九州森林管理局から「森林生態系保護地域ってなんだろう」と題して平成 2 0 年 3 月に設定した「綾森林生態系保護地域」を説明するとともに、日本自然保護協会から地域の方々と取り組んでいる復元のための調査活動等について説明し参加を呼びかけた。

説明会には地域住民等約 7 0 名が参加した。

(2) 綾町公民館大会で取組紹介

2 月 1 5 日綾町文化ホールで開催された「綾町 公民館・社会福祉・青少年健全育成町民大会」において、綾プロジェクトの取組を紹介した。

公民館大会には小中学生を含む町民約 3 0 0 名が参加し、表彰、公民館代表の地域づくりの発表が行われた後、「照葉樹林プロジェクトの取組」と題してパネルディスカッション形式で説明を行った。



事業説明会(高年者研修センター)



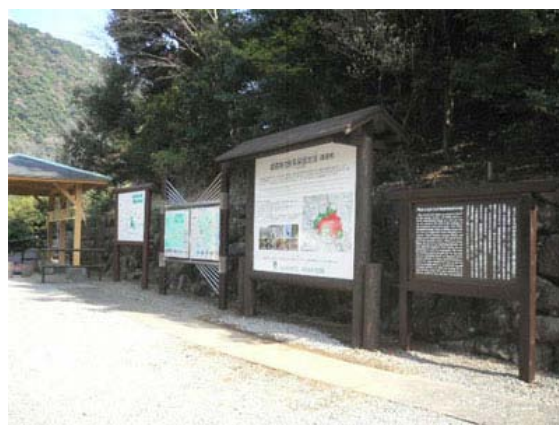
取組紹介(綾町文化ホール)

事業名	「綾森林生態系保護地域の説明板」製作 リーフレット作成	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域の説明板を製作するとともに、綾の照葉樹林プロジェクトに関するリーフレット等を作成		

1. 綾森林生態系保護地域の説明板を製作し、照葉大吊橋前広場及び大森岳林道入口2カ所に設置。



説明板の内容



設置状況（照葉大吊橋前広場）

2. 綾の照葉樹林プロジェクト及び綾森林生態系保護地域に関するリーフレット並びにプロジェクトエリアの全体図を作成。

事業名	「森林の市」への出展参加	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	日比谷公園で開催される「森林の市」に出展参加し綾の照葉樹林プロジェクトのPRや、サポートへの参加の呼びかけ等を実施。		

平成20年5月10、11日に東京都日比谷公園で開催された「森林の市」に出展・参加し、「綾の照葉樹林プロジェクト」の普及と当プロジェクトへのサポーター参加の呼びかけを行った。

当日はプロジェクトを紹介したDVDの放映、パネルの展示、パンフレットの配布を行ったほか、木工品作成コーナーでは、木と触れ合いながら照葉樹林への復元活動や間伐材利用の取組について理解を深めてもらうための「モックン」（間伐材を利用した木製キーホルダー）作りを行い、大人から子供まで幅広い参加があり好評を得た。



会場風景



親子でのモックン作成

事業名	ホームページの充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾プロジェクトで実施している取組事項等について、局ホームページに掲載し、広く情報を発信。		
綾の照葉樹林プロジェクトに関するイベント等の取組内容を九州森林管理局ホームページ「綾の照葉樹林プロジェクト」に掲載した。 綾の照葉樹林プロジェクト http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html 【掲載内容等】 平成 20 年度掲載内容 1 「森林の市」 2 「現地検討会」 3 「第 8 回連携会議開催」 4 「照葉樹林研究フォーラム」 5 「井出長官綾の照葉樹林視察」 6 「第 9 回連携会議開催」 7 「ボランティアによる照葉樹林復元作業」 8 「事業説明会を開催」 9 「綾町公民館大会で取組紹介」  現地検討会の状況  照葉樹林研究フォーラムの状況			

事業名	県有林造成事業（継続）	実施主体	宮崎県
		連携先	
事業概要 （目的）	針・広混交林化を進めるエリアにおいて、森林環境教育や保健休養的利用を促進するため、修景整備、獣害防除、間伐事業を実施した。		
1 修景整備事業			
1) 実施面積		1. 28ha	
2) 事業実施期間		7月	
			
25世紀の森（カヤとスギの複層林）の維持管理			
2 獣害防除事業			
1) 実施面積		3. 44ha	
2) 事業実施期間		11月～3月	
			
シカ害対策地 全景		カヤ植生状況確認	
3 間伐事業			
1) 実施面積		5. 57ha	
2) 事業実施期間		1月～6月	
			
間伐対象林 プロット調査		間伐作業 完成	

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	宮崎県
		連携先	
事業概要 (目的)	スギ人工林の混交林化への誘導技術に関する研究を継続実施 (試験期間：平成19年度～平成23年度・5ヶ年間)		

スギ人工林の混交林への誘導技術に関する研究概要

宮崎県林業技術センター

○これまでの経緯

諸県県有林24林班内の51年生スギ林内に本数率で0, 30, 50%の間伐試験地を設けた。林分の概況は平均樹高は17.3～18.4mと上長成長は劣り、地位はⅢ（平成19年度スギ林分収穫予想表）であった。形状比は82～88と高く、また、樹冠長比は32.6～34.7と中庸で、極端な樹冠の枯上がりはみられなかった。広葉樹の侵入の程度は比較的多く、また、試験地に隣接する場所に広葉樹が見られた。

○調査の内容

伐採に伴う土砂移動を調査するため、土砂受箱を設置した。当初は伐採の影響（攪乱）で、土砂の移動は大きい傾向がみられたが、次第に減少した。また、林内の広葉樹の萌芽については、伐採時保全に務めた結果、順調な成長が認められた。鳥散布、休眠種子の発芽については、期間が短いことから、多くは確認はできなかった。伐採に伴う光環境の変化については、開空度が大きくなり、相対照度は高くなった（光環境の改善）。

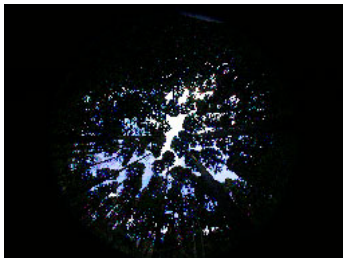
○今後の調査予定

①新規（侵入）広葉樹調査、②土砂移動量調査、③光環境調査及び ④既存広葉樹調査及び美郷町西郷区に設置した試験区との比較も行う。

なお、綾試験区は周囲に広葉樹が残置され、また、試験区内にも萌芽の発生がみられることから、侵入・定着化が見込まれると考えている。



周囲の広葉樹



開 空 度

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業（継続）	実施主体	宮崎県
		連携先	
事業概要 （目的）	人工林から照葉樹林に復元を図るエリアにおいて、針葉樹林から広葉樹林へ復元するための間伐を実施した。		

1 針葉樹林から広葉樹林へ復元するための間伐

1）実施面積16.40ha

2）事業実施期間12月～3月



間伐対象林 プロット調査



間伐作業完成（伐採木確認）



スギ人工林を間伐することにより公益的機能の増進が図られるとともに
下層植生として広葉樹の導入が促進される

事業名	森林環境教育（継続）	実施主体	宮 崎 県
		連 携 先	てるはの森の会
事業概要 （目 的）	原生的な照葉樹林が分布するエリアにおいて、民間を対象とした森林環境教育として「きのこ作り体験学習会」を実施した。		

1 森林環境教育として「きのこ作り体験学習会」を実施

1）参加者数

74名（計画60名）

2）事業実施期間

2月1日

3）しいたけ駒打ち説明会









吉田先生による椎茸の育て方や駒打ち作業の説明会

4）しいたけ駒打ち作業









参加者による、ほだ木への穴あけ作業やしいたけ駒打ち作業

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	実施主体	綾町
		連携先	
事業概要 (目的)	綾町の財産である照葉樹林の森の豊かさ、その森からのめぐみを「いのちの森をひろげよう」をテーマに開催、多くの人に綾の森を知ってもらい、大切な何かを発見してもらおう。照葉樹林シンポジウム実行委員会に補助(300 千円)		

平成20年6月1日(日)、綾町公民館文化ホールを会場に講演会、座談会、照葉樹林を写した写真展、ガイドによる綾の森のウォーキング実施。 シンポジウム参加者 約 450 名

開演 9:30 はじまりの歌 hou
森の子ども達による朗読 (セヴァン・スズキの環境サミットスピーチより)

基調講演 「豊かな森を次世代へ」 森山まり子(日本熊森協会会長)

座談会 「未来への種まき」 コーディネーター 郷田美紀子
パネラー 森山まり子、図師哲雄、綾町長 前田穰、宮崎森林管理署長 笹岡哲也

スライド講演 「照葉樹林へのいざない」 河野耕三
てるはの森の会代表挨拶 上野 登

綾の森へ行こう! 14:00 綾の森ウォーキング(照葉大吊橋〜川中キャンプ場)
ガイドボランティア同行 138 名参加



会場の様子



座談会

事業名	照葉樹林環境教育講座	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	子ども達が貴重な財産である照葉樹林について理解を深め、同時に自然意識の高揚を図る。綾小、中学校で実施する。		

綾小学校 4 年生 67 名 担任 3 名 計 70 名
平成 20 年 12 月 4 日(木) 会場 綾神社と周辺公園遊歩道
内容 講師 古田 栄子
 ネイチャーゲーム
 ① ジャンケン落ち葉集め ②音いくつ ③ディスカバーウォーク ④ サイレントウォーク
 ⑤森と水の話

綾中学校 1 年生 72 名
平成 21 年 2 月 19 日 (木) 会場 綾中体育館
内容
「森の役割について」 河野 耕三
「温暖化と気象の話」 気象予報士 岩倉 尚哉



綾小学校

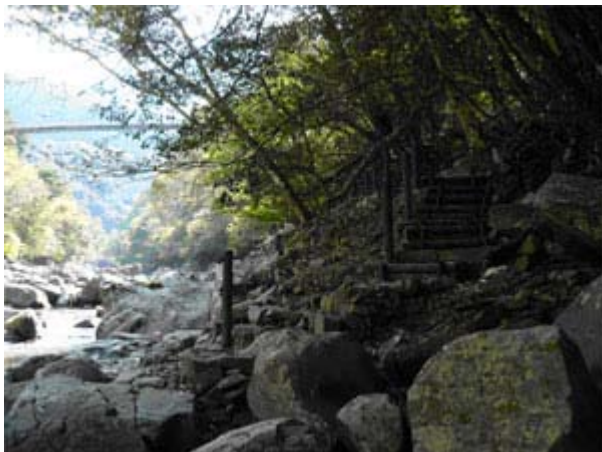


綾中学校

事業名	自然散策道路の整備	実施主体	綾町
		連携先	
事業概要 (目的)	吊り橋付近に川に下りる遊歩道がないことから、親水遊歩道を整備した。 事業名 安全・快適自然公園整備事業 (県単事業) 工期 平成 20 年 10 月 30 日～平成 21 年 2 月 26 日 延長 137m 工事費 4,853,000 円 設置場所 かじか吊橋付近左岸側		



入 口



終 点

事業名	森林セラピー基地整備事業	実施主体	綾町
		連携先	
事業概要 (目的)	日本有数の照葉樹林地帯である綾町は、平成 19 年 3 月 22 日に「森林セラピー基地」としての認定を受けた。そこで照葉樹林を含めた森林地帯をますます有効な地域資源として活用するため、森林・産業・観光・健康増進を組み合わせ、地域振興に資することを目的とする。		

① 森林セラピー推進協議会運営

森林セラピー推進協議会を開催し、森林セラピーに従事していただく森の案内人を募集・養成する。また森林セラピーロードの整備、メニュー開発について協議する。(2回開催)

また、県・町が連携し、森林セラピーの核となる「ガイド(人材)」の育成に着手。ガイドは町内在住者から募集し、現在 24 名が講座を受講中。講座期間は平成 20 年 9 月から平成 21 年 9 月まで。さらに、協議会で作成したツアープランを実践するため、平成 20 年 10 月から毎月 1 回モニターツアーを実施。5 回実施し、合計 24 名の参加があった。

② 森林セラピー関係機関会議

森林セラピー基地・ロード認定機関で運営している「森林セラピーネットワーク会議」への参加し、実践者育成のための全国の取組や他の基地と情報交換を行った。

③ 特産品の研究

モニターツアー及び養成講座において、実際ツアーで提供する食事を試食してもらい、意見、要望等を取った。

④ 手すり等の設置

安全対策の手すりの設置、またセラピー効果を高めるため健康増進附帯設備設置を行った。



森の案内の人養成講座



モニターツアー

事業名	生涯学習講座	実施主体	綾町
		提携先	
事業概要 (目的)	「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市綾町」創出のため、綾の森について専門家の講義を聴き、町民の保護運動参加への一助とする生涯学習を開設した。		
講座実施状況 6月から月1回実施 29名参加			
()講師			
第1回	6月10日(火) 室内	照葉樹林概説	(河野耕三)
第2回	7月 8日(火) 屋外	綾神社週辺と耶治川麓～杣道北向き斜面	(河野耕三)
第3回	8月12日(火) 屋外	サイクリングターミナル付近から綾北川県道を歩く	(河野耕三)
第4回	9月 9日(火) 室内	照葉樹林文化	(上野 登)
第5回	10月14日(火) 屋外	綾北川・南川を歩く	(河野耕三)
第6回	11月11日(火) 屋外	大吊橋～かじか吊橋周遊コースを歩く	(河野耕三)
第7回	12月9日(火) 屋外	綾の森の鳥たち	(猪崎 悦子)
第8回	1月13日(火) 屋外	綾の森と遊ぼう	(古田 栄子)
第9回	2月10日(火) 室内	綾の森の話	(清藤 正弘)
第10回	3月10日(火) 屋外	堤防・水田・あぜ道	(河野耕三)
 			
綾の森と遊ぼう 大吊橋～かじか吊橋周遊コースを歩く			

事業名	町有林の保護復元に伴う基礎調査	実施主体	綾町
		連携先	日本自然保護協会
事業概要 (目的)	綾プロジェクトエリア内の町有林の復元を効果的、効率的に行うための調査を実施。 委託先 日本自然保護協会 実施期間 7月17日～3月25日 大口 (35ha) 小屋ヶ谷 (48ha) 百ヶ倉 (28ha) の林床植生調査、植生図作成、復元計画書作成		

調査は大口町有林に 3 箇所、小屋ヶ谷町有林に 7 箇所、百ヶ倉町有林に 1 箇所、また隣接する県有林に植生調査用のコドラートを設置し、植被率を測定し、その中の胸高 1.3m 未満の個体に関して種、被度、高さ、実生の種、高さを測定し林床植生を明らかにした。また胸高以上の個体に関しては、胸高直径、高さを測定した。同時に土壌水分、リターの厚さ、開空度、傾斜、方位、標高、緯度、経度情報を測定した。

その結果、人工林の林床にみられた植生パターンは、ホソバカナワラビ・イヌガシ型、シロダモ・イズセンリョウ型、ウラジロ型、多種優占型の 4 つのグループに区分され、これらはこの順で自然林からの距離が近くなることがわかった。また、地形的に見た場合、ウラジロ型は屋根にのみ出現し、シロダモ・イズセンリョウ型は斜面に見られ、地形的な差異がみられた。また植被率に関しては自然林からの距離や地形によらず、開空度すなわち照度の影響が大きいことが明らかになった。

また、ブナ科植物の出現パターンでは尾根に全体の 70%の個体が出現することがわかった。すなわち、種子バンクを形成しないブナ科植物の林床内の分布は屋根に偏っており、復元の際の優先順位の指標となると考えられた。



町有林位置図

事業名	ふれあい調査の実施（上畑地区）	実施主体	NACS-J
		連携先	綾町
事業概要 （目的）	綾町東部、居住地区としては照葉樹林帯に最も近い地区の1つ上畑地区において、地域の人たちと自然とのふれあい（土地の自然に対する思い、生活での自然とのかかわり、照葉樹林とのかかわり等）を調べることで、地域の自然とくらし、文化、歴史など地域の価値を再発見する。その結果を「ふれあいマップ」に表示し、人々の思いや自然とのかかわりを可視化する。これを照葉樹林プロジェクトにおける地域づくりの資料として活用し、人々の思いを大切にしながら、住民参加のもと、照葉樹林の保護・復元を進めるものである。		

2009年3月に実施した五感でとらえるふれあいアンケート調査結果に基づき、懇談会スタイルでのヒアリングと聞きとり調査、現地調査を実施した（4, 6, 9, 1月）。これらの調査結果に基づき上畑地区の人たちが大切に思うふれあいはどの場所に存在するか、どこで見られるかを地図に表した「ふれあいマップ」の作成に取り掛かった。マップの発行と活用は21年度事業で実施する。

ふれあい調査結果の中間とりまとめとして、上畑地区における人と自然とのふれあいは、おもに8つの項目に分類された。

①綾南川との深いかかわりがあること、②家のまわりの田畑、里山が子どもの遊び場であり仕事の間であったこと、③身近にさまざまな生き物がいる（いた）こと、④地域の自然の中からさまざまな食べ物を得ていること、⑤生活に必要な道具を作る技術や暮らしの知恵が引き継がれていること、⑥季節ごとに行事があり、地区の人々の交流の機会がいくつもありつながりが保たれていること、⑦地区のあちこちに祠や石像など土地を守る神様がいること、⑧照葉樹林は当たり前にあるものであって、特別に意識していなかったが、その大切さを理解し守っていく必要は感じ始めていること、であった。



調査結果を表示した地図(中間成果)



公民館でのふれあい調査懇談会



俵踊りの衣装



田の神様

事業名	調査研究ワーキングの準備	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内で実施される復元事業に関して専門家からなる検討体制を構築し、復元方法、調査方法、評価方法を検討し、アドバイスを行う。また、実際のモニタリング調査を実施し、データを収集するとともに解析を行い、復元事業に反映する。テーマに応じてその分野の専門家の参加を得る。コアメンバーとして大澤雅彦氏（日本自然保護協会専務理事）、河野耕三氏（綾町照葉樹林文化推進専門監）、西脇亜也氏（宮崎大学教授、欠席）、伊藤哲氏（宮崎大学准教授）、高木正博氏（宮崎大学准教授）の5名で実施した。		

2009年5月28日（水）に綾町役場にて上記の4名と林裕美子氏（てるはの森の会）、相馬美佐子氏（てるはの森の会）、事務局朱宮丈晴（NACS-J）、宮川将（NACS-J）が参加して調査研究ワーキングの準備会合を実施した。この準備会合の議題は、九州森林管理局で予定されていた平成20年度事業に関する検討と調査研究ワーキングの今後の進め方について検討を行った。この結果、照葉樹林の復元作業を行うにあたって、優先的に作業を行うべき場所の選定や復元方法を検討するための基盤情報が不足していること、各実施された事業の優先順位が明確でないこと、調査と事業がばらばらであるなどの多くの指摘が出た。その後、九州森林管理局から平成20年度事業として、「照葉樹林への保護・復元に関する情報収集・活用設計調査委託」事業が始まり、既往研究の収集と解析、科学的なデータに関するデータベース設計が進められ、ここでの検討が引き継がれた。調査研究ワーキングの体制や運営のための予算的な措置に関しては現在も検討中である。



5月28日に実施された準備会合のようす

事業名	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける 市民参加による自然林の復元調査	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 （目的）	間伐作業の前後で市民参加の調査を実施し、間伐前の林床植生の様子を知ってもらうとともに間伐後の林床植生の変化を実感してもらうこと。また、継続的に調査を実施していくことで間伐後の変化を知り、プロジェクトへの参加意識を高めること。そのデータを蓄積し、解析することによって今後の復元に活用していくこと。		
町有林において10月27日（大口町有林）と12月3日（百ヶ倉町有林）に市民ボランティア参加の調査を実施した。10月の調査では、林床植生図を作成する試行を行った。12月の調査の際には調査マニュアル（案）を配布し、補助的に使用しながら林床植生に関する植生調査を実施した。これらの結果は照葉樹林（町有林）の保護復元に伴う基礎調査の結果に盛り込んだ。 なお、通常国有林で年2回実施される市民参加の間伐作業に合わせて調査を実施していたが、前後でイベントが集中し、ボランティアの募集がかけられず実施できなかった。			
 大口町有林（10月27日）  百ヶ倉町有林（12月3日）			

事業名	環境学習事業(継続)	実施主体	てるはの森の会																																													
		連携先	綾町																																													
事業概要 (目的)	①照葉樹林文化シンポジウム 2008 の開催協力 ②照葉樹林ガイドボランティアスキルアップ研修の開催 ③照葉樹林ガイドボランティア実践活動 ④綾の沢調査の実施協力																																															
①照葉樹林文化シンポジウム 2008 の開催協力 てるはの森の会広報ブース出展。																																																
②照葉樹林ガイドボランティアスキルアップ研修の開催 第1回 5月18日 12人参加 第2回 11月22日 8人参加 第3回 2月22日～23日 11人参加 計31名 第1回研修では遊歩道ガイドの復習を行った。 第2回研修では鹿児島県鹿屋市[照葉樹林原生林シンポジウム]に参加した。本会代表上野登が基調講演をした。午後からは、二股キャンプ場周辺の照葉樹林の散策に同行し、綾の森との違いを勉強した。 第3回研修では、川中国有林の巨樹の森観察、野鳥観察教室を実施した。																																																
③照葉樹林ガイドボランティア実践活動 綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。照葉樹林の多様性を伝え、綾プロジェクトの保護・復元活動の取り組みを広く広報する。 参加者合計 17回 426名																																																
<table><tr><td>実施月</td><td>実施回数</td><td>参加者数</td><td>実施月</td><td>実施回数</td><td>参加者数</td><td>実施月</td><td>実施回数</td><td>参加者数</td></tr><tr><td>4月</td><td>2回</td><td>41人</td><td>8月</td><td>1回</td><td>1人</td><td>12月</td><td>なし</td><td></td></tr><tr><td>5月</td><td>2回</td><td>76人</td><td>9月</td><td>なし</td><td></td><td>1月</td><td>1回</td><td>18人</td></tr><tr><td>6月</td><td>4回</td><td>187人</td><td>10月</td><td>1回</td><td>2人</td><td>2月</td><td>2回</td><td>33人</td></tr><tr><td>7月</td><td>なし</td><td></td><td>11月</td><td>3回</td><td>59人</td><td>3月</td><td>1回</td><td>9人</td></tr></table>				実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	4月	2回	41人	8月	1回	1人	12月	なし		5月	2回	76人	9月	なし		1月	1回	18人	6月	4回	187人	10月	1回	2人	2月	2回	33人	7月	なし		11月	3回	59人	3月	1回	9人
実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数																																								
4月	2回	41人	8月	1回	1人	12月	なし																																									
5月	2回	76人	9月	なし		1月	1回	18人																																								
6月	4回	187人	10月	1回	2人	2月	2回	33人																																								
7月	なし		11月	3回	59人	3月	1回	9人																																								
○照葉樹林ガイド付きツアーの実施 県外団体客を中心に案内してきたが、照葉樹林のすばらしさを地元住民に広報するため、初めて実施した。新聞等に広く取り上げられ、多くの参加があり、季節を変えての開催を希望されたので、3月にも2回実施した。計画では8回の予定であったが、雨天により2回中止した。 参加者合計 6回 99名																																																
<table><tr><td>実施日</td><td>参加者数</td><td>実施日</td><td>参加者数</td></tr><tr><td>11月7日</td><td>5人</td><td>3月14日</td><td>20人</td></tr><tr><td>11月23日</td><td>24人</td><td>3月20日</td><td>21人</td></tr><tr><td>11月28日</td><td>10人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>12月7日</td><td>19人</td><td></td><td></td></tr></table>				実施日	参加者数	実施日	参加者数	11月7日	5人	3月14日	20人	11月23日	24人	3月20日	21人	11月28日	10人			12月7日	19人																											
実施日	参加者数	実施日	参加者数																																													
11月7日	5人	3月14日	20人																																													
11月23日	24人	3月20日	21人																																													
11月28日	10人																																															
12月7日	19人																																															
④沢調査 平成 20 年度の沢調査は、川中の 2 つの沢で月に 1 度の定期調査、多古羅川流域で 7 月、11 月、2 月に一斉調査を実施した (7 月には法政大学の小寺先生と学生 1 人が参加)。また、10 月には中部大学の寺井先生と学生 4 人も参加して、流域の土壌調査と勉強会を行なった。延べ参加人数は 58 名。10 月には、日本陸水学会で成果のポスター発表を行ない、1 月の照葉樹林研究フォーラムでは、コバントビケラの巣材が切り取られた葉を用いて作った葉を参加者に配布した。																																																

事業名	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業 (継続)	実施主体	てるはの森の会・
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するパネル等を展示するネイチャーセンター、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F:飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」

4月～11月は金・土・日・月の週4日の営業、12月より土・日・月の週3日の営業に変更。

照葉樹林文化館市民協働委員会2回とJICAコロンビア研修を「てるは森の驛」で行った。

また、今年度初めて開催したガイド付き体験ツアーはコーヒー付きとし、「てるは森の驛」の利用促進に役立った。



書籍等の販売



食堂のようす



1 F ネイチャーセンター

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)		実施主体	てるはの森の会
			連携先	連携会議
事業概要 (目的)	プロジェクト関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年2回開催の連携会議、月1回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。			
○連携会議	回数	日時	主な議題	
			平成19年度事業報告	
	1	6月20日	平成20年度事業計画案	
			・地域づくりワーキンググループ委嘱式	
	2	11月14日	平成20年度事業計画進捗状況について	
			後期短期行動計画について	
			・Ⅰ 前期短期行動計画の検証	
			・Ⅱ 後期短期行動計画案	
○連絡調整会議				
回数	日時	主な議題		
1	4月22日	綾プロジェクト運営ワーキング(仮称)について 今年度の事業計画案・予算案について		
2	5月27日	綾プロジェクト運営ワーキング(仮称)について 第8回連携会議について		
3	7月15日	後期短期行動計画づくり手順(案) ・Ⅰ 前期短期行動計画の検証 ・Ⅱ 後期短期行動計画づくり 綾プロ事業報告会の開催について		
4	8月28日	後期短期行動計画づくり手順 間伐作業の日程		
5	9月24日	綾プロ事業報告会の開催について 第5回復元作業について(11/15～16) 第4期短期行動計画づくり		
6	10月27日	綾プロにおける照葉樹林復元作業の考え方について 第5回復元作業について(11/15～16) 第4期短期行動計画づくり		
7	12月2日	綾プロ事業報告会の開催について(12/2) Ⅱ期後期(H20.4～H25.3)短期行動計画案確定		
8	H21.1月13日	綾町公民館大会(2/15)について Ⅱ期後期(H20.4～H25.3)短期行動計画案確定		
9	3月10日	H21年度スケジュール案について		

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	
事業概要 (目的)	ホームページの作成やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の 広報活動を行なう。		

てるはの森の会のホームページ
<http://www.teruhanomori.com/>
てるはの森の会事務局ブログ
<http://blog.canpan.info/teruha/>

○ニューズペーパー「照葉樹林だより」の発行
(年4回発行)

- ・第11号 5月20日発行
- ・第12号 8月20日発行
- ・第13号 12月20日発行
- ・第14号 4月20日発行



てるはの森の会HP



照葉樹林だより 14号

○照葉樹林文化シンポジウム2008の開催協力
(6月1日・綾町公民館文化ホール)



てるはの森の会広報ブース出展

- 33 -

- 34 -

事業名	照葉樹林文化館活用に関する市民協働会議 の設置と運営(新規)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉樹林文化館の活用法と、改装計画の策定のための市民協働会議を設置し、 21年度以降の運営に反映させる。 ①□2/17 ②1/7 ③1/22 ④2/12 ⑤2/26 の全5回実施		

照葉樹林文化館活用に関する市民協働会議を観光課参加で協議を重ねるうちに、平成21年度に改装計画が綾町の予算で認められ、実現の運びとなった。3月中旬に町長に改装計画の提言をすることになった。

○第1回(12/17) 文化館視察 現状と問題点抽出
 ○第2回(1/7) 問題点について考察(宮崎県立博物館の映像参考)
 ○第3回(1/22) 展示のコンセプトを考える
 ○第4回(2/12) 文化館視察 現在ある展示の利用法
 ○第5回(2/26) 活用・改装計画作成




会議のようす

参考資料作成

文化館収納品一覧

文化館平面図・断面図

綾の森 世界遺産登録へ期待

国の保護 「前提クリア」と地元
地域指定

08.4.13宮

国内最大規模の照葉樹林である綾町の「綾の森」(約二千五百ヘクタール)で、原生林に覆われた千六百六十七ヘクタールが三月下旬、林野庁の森林生態系保護地域に指定され、世界自然遺産への登録を目指す地元関係者が期待を強めている。国の保護林で最も厳しい規制対象に指定されたことで、学術研究や災害時以外は人の手を加えられなくなる。世界自然遺産の知床(北海道)、白神山地(青森県、秋田県)、や摩久島(鹿児島県)などと同保護地域に指定されてお

り、綾の森の地元からは「前提条件を一つクリアした」との声も上がる。絶滅危惧(きん)種のクマタカが上を舞い、南限のニホンカモシカが生息する綾の森は、二〇〇三年の世界自然遺産候補地検討会で最終選考まで残ったが、原生林の規模が小さかったことがネックとなり落選。以来、九州森林管理局や市民が一体となってスギ、ヒノキの人工林を照葉樹林に復元するプロジェクトを進行させていた。

照葉樹林帯はネパールから東南アジア北部、中国雲南省

地元情熱実った

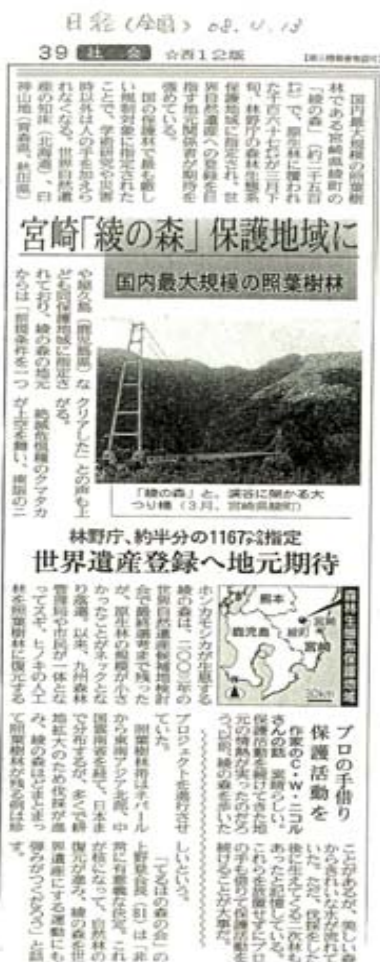
【作家のC・W・ニコルさんの話】素晴らしい。保護活動を続けてきた地元の情熱が実ったのだろう。以前綾の森を歩いたことがあるが、美しい森からきれいな水が流れていた。ただ、伐採をした後に生えてくる二次林もあったと記憶している。これらを放置せずにプロの手も借りて保護活動を続けることが大事だ。

国内最大規模の照葉樹林「綾の森」と、溪谷に架かる大つり橋

を経て、日本まで分布するが、多くで耕地拡大のため伐採が進み、綾の森ほどまとまって照葉樹林が残る例は珍しいという。

「てるはの森の会」の上野發会長は「非常に有意義な決定。これが核になって、自然林の復元が進み、綾の森を世界遺産にする運動にも弾みがつくだろう」と話す。

世界遺産登録へ期待 (宮日 08.4.13)



「綾の森」保護地域に (日経・西日本 08.4.13)

08.6.3 日

照葉樹林を守れ

綾町 シンポに500人参加



シンポジウムの後、綾の森を歩く参加者たち

綾町の照葉樹林を守り育てていくため今後の課題を話し合う「照葉樹林文化シンポジウム」(同)が、十三回目となる今回の森を歩いた。

シンポでは、全国に一万六千以上の会員を持ち、奥山の保全、復元を行っている日本熊鷹協会の森山まり子会長が講演し、座談会に加わった。森山さんは「綾の森が残ったのは奇跡。よくぞ残してくれた。戦後、原生林はほとんどなくなつてしまつており、森を復元するときのお手本になる。全国に発信していくべきだ」と綾の森の重要性を強調していた。

座談会でコーディネーターを務めた堀田美紀子さん(左)は「若者たちが実行委員を務め、みんなが一つになった。流れが変わるいいきっかけになったと思う」と話した。

日本の奥山保全や動植物の保護に取り組んでいる「日本熊鷹協会」の森山まり子会長の講演を聞き、「森あつて人間」という言葉が印象に残った。森は多様な生き物を育て、豊かな水を供給してくれる。この事実を忘れたとき、どうなるか。結論は言うまでもない。綾町には国内最大規模の照葉樹林があり、国民

鬼の洗濯岩

で取り組む綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト)が進められている。百年の大計といえる長期的な取り組みの成否は、ひとえに住民の力にかかっている。先人が守り抜いたこの森をこれからも大切に受け継いでいけば、未来でまた皆さんの恩恵をもたらしてくれるはずだ。

(完)

08.6.4 日

照葉樹林保護訴え

綾で関係者らシンポ



照葉樹林文化シンポジウム in 綾2008(同実行委主催)は、綾町公民館文化ホールで二日あった。県内外の約五百人が、「いのちの森をひろげよう」をテーマに行われた講演や座談会を通じ自然と人とのつながりや環境保護などについて考えた。

基調講演では、日本の奥山保全や動植物の保護に取り組んでいる「日本熊鷹協会」の森山まり子会長が「奥山の自然が全国で姿を消し、森の生物が絶滅し豊かな水源地も失いつつある。奥山がなくなれば二度と元に戻らない。しまったと思つたときにはすべて手遅れ」と訴えた。

座談会では森山会長や前田雅雄町長、宮崎森林管理署の佐岡哲也署長ら五人が意見交換。前田町長は「綾の森は日本の命であり世界の命。守っていく責

任を痛感している」と強調。現在、宮崎五市で取り組む綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト)が進められているが、佐岡署長は「照葉樹林をつくるのは自然の力。住民には長い目で見て、支援してほしい」と語った。

森山会長は活動の展開の仕方について「自分ができることを徹底してやることで協力体制ができる」と助言した。

照葉樹林を守れ 綾でシンポジウム (宮日・西日本 08.6.3)

08.6.18. 宮日
森の楽しさ知って
 綾町が里山づくり計画



国内最大規模の照葉樹林がある綾町は、同町入野の町有地（約〇・五ha）に里山づくりを計画している。子どもたちが里山で木々に親しみ、綾の森に興味を持ってもらうのが狙い。来年二月にも植林を始める予定。

里山づくりを指導するのは、同町嘱託の「照葉樹林文化推進専門監」で元宮崎農高教諭の河野耕三さん（60）。三十年近く照葉樹林の植物の調査・研究を行い、現在は照葉樹林を国民一休で保護・復元する「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」（通称・綾の照葉樹林プロジェクト）の一員として活動している。

活動を通して「綾の子どもたちは森で遊ぶ体験が少なく感じていた」と河野さん。計画では、四季を感じ取れるようにするため、クヌギやイイギリ、ムクロジといった落葉樹約三千本を植栽する。ドングリ拾いや昆虫採集なども行い、森の楽しさを知ってもらう予定だ。

河野さんは「照葉樹林を中心とする生態系に綾の人々ははぐまれてきた。里山で遊び、森の大切さを知れば、古里を大事にする大人になるはずだ」と話している。

綾町が計画している里山づくりについて「子どもたちが森で遊ぶ体験ができる場が必要」と話す河野さん

森の楽しさ知って 綾町が里山作り計画 （宮日 08.6.18）

08. 6. 22 宮日

綾の森 住民で守ろう

照葉樹林
保護計画 作業部会が発足

国内最大規模を誇る綾町の
照葉樹林を住民一体となって
保護・復元する「綾川流域照
葉樹林保護・復元計画（通
称・綾の照葉樹林プロシエ
クト）」（二〇〇五年策定）に
二十日、初めてのワーキング
グループが誕生した。グルー
プはプロジェクトの普及・啓
発イベントや、より多くの住
民が綾の森を守る活動に参加
できる体制づくりなどを協議



グループは、プロジェクト
を活性化するため地元住民ら
の意見を幅広く取り入れ、プ
ロシエクトの各種事業を通じ
た地域振興策なども考えよう
と設置。メンバーは町民や町
議、地域経済論の有識者ら計
八人。今後、月一回会合を重
ね、出てきた意見は事業計画
としてまとめ、プロジェクト
の連携会議で提案する。

同日、綾町役場であった第
八回連携会議で設置が承認さ
れ、プロジェクトの中心団体
の一つ「綾の森の会」の
上野代表が委嘱状を手渡し
た。

ワーキンググループメンバ
ーの一人で、綾町で民宿を経
営する水山倫太郎さん（五二）
高崎市桜ヶ丘Ⅱは「地元はも
ちろん、町近郊の人たちが森
づくりに関わっていきえるよう
な体制づくりを考えたい」と
話していた。

上野代表から委嘱状を
受け取るワーキン
ググループのメン
バー

綾の森 住民で守ろう 作業部会が発足 （宮日 08.6.22）



自然との融合評価 綾で照葉樹林フォーラム（宮日 08.6.27）

第3種郵便物認可

照葉樹林生かし地域活性化

環境保全事業国が認定

国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林の保護活動を行っている「綾の森の会」(上野登代表)と同町が連携して取り組む事業が、官民一体となった地域活性化策を運営に反映させる。また、森と入る活動に参加できるような枠組みをつくりたい」と話している。

大吊橋そばに建つ照葉樹林文化館の改装や、より興味を引くような標本の見せ方をまとめた改善計画を策定、二〇〇九年度以降のもちろん、多くの人が綾の森を守る活動に参加できるように枠組みをつくりたい」と話している。

認定された事業の柱は、①研究フォーラムの開催②地域住民や有識者を交えたワーキンググループ(WG)の設置③「照葉樹林文化館」の有効活用④広報誌の作製。研究フォーラムは発表活動として、本年度中に学識者を招き百人規模で開く予定。WGは、活動の輪を広げ組織基盤を固めるアイデアを模索するため、具体的な計画をつくっていく。

観光客誘致の一環で、綾の照葉

てはの森の会 文化館改装や写真誌
綾町と連携

支障する国の地域再生計画に認定された。現在、同町では官民挙げて綾の森の保護・復元活動が展開されており、今回の認定で、環境保と綾の森の文化継承にさらに弾みがつきそうだ。

認定された事業の柱は、①研究フォーラムの開催②地域住民や有識者を交えたワーキンググループ(WG)の設置③「照葉樹林文化館」の有効活用④広報誌の作製。研究フォーラムは発表活動として、本年度中に学識者を招き百人規模で開く予定。WGは、活動の輪を広げ組織基盤を固めるアイデアを模索するため、具体的な計画をつくっていく。

観光客誘致の一環で、綾の照葉



官民一体となって活用法を考える照葉樹林文化館

08.7.16宮日



「綾の森」世界遺産に 別府大 100 周年で講演 （宮日 08.8.11）

宮 崎
2008.10.11. 宮日

第3種形保樹可



スギの間伐作業を体験するラオスからの研修生（左）

祖国の森再生 綾で研修

間伐に挑戦、自然農法も

ラオス公務員

焼き畑や不法伐採で森林消滅、公務員七人が、綾町で十一日、失が深刻化しているラオスの「まで研修し、森林の保護や農

林業の普及、自然生態系農業について学んでいる。九日は同町の川中神社周辺の森で、照葉樹林再生のためのスギ間伐作業に挑戦した。

森林の荒廃を食い止め、新しい農業生産活動で生活改善を進め、森林の有効利用を図る国際協力機構（JICA）の支援プロジェクトの一環。研修生は男女七人。同町の「賢治の学校綾自然農法生活実践場」の全面協力を受け、六日から同町を訪れている。これまで国富町岩知野の中部農業改良普及センターや綾町の綾有機農業開発センターで農業振興策などを学んだ。

スギ間伐は、官民五者が連携して綾の森の保護・復元に取り組む「綾照葉樹林プロジェクト」を知ってもらい、同

木の運動を綾と同じ照葉樹林帯に属する同国でも広めてもらおうと計画。宮崎森林管理署職員の手導を受け、のこぎりやなたを使い、樹高十五メートルほどのスギを切り倒した。参加者は同職員から「間伐で日光が当たるようになり、動物や風が運んできた照葉樹が自然に芽吹く」と説明を聞き感心した様子。農業指導員のシーチャン・ハンズックさんは「ラオスに戻って、綾のように多様な農産物が豊かな森をつくりたい」と話していた。

祖国の森再生 綾で研修 (宮日 08.10.11)

2008.11.9 日

綾の照葉樹林満喫 ガイド付きツアー始まる

綾町の照葉樹林の素晴らしさへの理解を深めてもらうこと、綾の森の保護・復元計画と、民間団体「てるはの森の会」(上野発代)のガイド付き体験ツアーが七日、始まった。同町や高崎市から五人が参加し、森の魅力を存分に満喫した。十二月七日まで計五回実施する。

照葉樹林ガイドボランティア二人が保護・復元計画の概要や世界の照葉樹林帯の分布を説明。その後、照葉大吊橋周辺の遊歩道(約二キロ)を歩き、途中のスタシイやタブキなどの樹木の前では樹木の特性を解説した。また、森の営みについて「照葉樹が根を張り巡らせることで土砂崩れを防いでいる」「植物同士が互いに助け合いながら生存している」と説明すると、参加者たちは感心した様子で真剣に聞き入っていた。

綾町南側の無職岡元志摩子

さんへは「何度か綾の森には来たことがあるが、木々の名前を分らないことが多く参加を決めた。ガイドツアーはとても勉強になったし、今後も綾の森を守ってほしい」と話していた。

ツアーは二十三日、二十八、十二月五、七日。時間は午前十時―午後四時半。定員各二十人。十二月七日は二十人。参加費五百円(別途交通費通行料必要)。

申し込み、問い合わせは同会事務局(0985)3572000。

綾の照葉樹林満喫 ガイド付きツアー始まる (宮日 08.11.9)

2008.11.25 晴 3 種郵便物認可

富

綾町の照葉樹林保全活動

企業 社会貢献の場に

間伐など体験ツアー好評

織町は、近年関心が高ま
ている企業の社会貢献活動の
場として、同町が進める照葉
樹林保全活動などを活用して
もらっている模様としている。
同町には都市部の住民との交
流や移住促進のきっかけとな
り、企業にとっても全国的に
知名度が高い同町での活動に

よりイメーシアップが図れるなどのメリットが期待でき、岡町は関係団体と連携してPRしていく方針だ。

今月十四・十六日は、埼玉県の特定非営利活動法人（NPO法人）「木の家たいたすき」の会」がモニターツアーを初開催した。綾の森を市民一休

で保護・復元する緑の照葉樹林プロジェクトの「このほの森の会」と連携し、企業に貢献活動を紹介する業者ら県内外から十七人に、研修内容を体験してもらった。

川中キャンパスでは、広葉樹が自然に芽吹くようにするため森の中に日光が入る



森の復元へ、スギの間伐作業を体験する参加者

よきにスギ間伐を体験。参加者は、高さ約十五層のスギにのこぎりで切り込みを入れ、慎重に倒した。このほか、有機農業についての学習会や地元生産者との交流会もあり、

東京から参加した、環境コンサルティングなどを手掛ける平松宏城さん^同は「都市の企業には環境問題への意識や予算があっても、どう生か

したらいいか分らない会社も多い。照葉樹林をはじめとして、綾町は魅力があり、活動の場所として提供すれば多くの企業が来るのではないかと話していた。

旅の
ひとこと



東京都・会社員
栗原 聡子さん
2008
11.19
宿

綾町の照葉樹林が森の復元のための開伐ボランティアを体験しました。綾の森は貴重、ニュースで見たことはありませんでしたが、実際入ってみると植物が多様々、生命力にあふれた森に圧倒（タビナル）しました。（綾町サイクリングガイド）

綾町の体験ツアーに参加するため宮崎に初めて来ました。開放感があつていいですね。東国原知事がテレビでPRしていることもあり、農産物が豊かというイメージもあります。

された。イチイガシなどの大木がなくなると、立っている光景もすこいと思えます。

08.12.06 高原町 西時

によって伝承され、三十軒ほどの氏子とその家との舞いを引き継いでいる。同町にすむ氏子だけで神楽を伝承している例は全国でも珍しいという。昨年は東京の国立劇場で単独公演を行った。

町民説明会に 50 人が参加

綾の照葉樹林プロジェクト

照葉樹林の復元を目指す「綾の照葉樹林プロジェクト」の町民説明会が綾町南隣の町高年者研修センターで開かれ、約五十人の町民が出席した。写真。同プロジェクトを推進する九州森林管理局が今年三月の綾森林生態系保護地域の指定について説明したが、町民から「綾町民は身近すぎて価値が分からないのでは」などの声もあった。

同管理局の飯田嘉章計画課長は、世界自然遺産に登録された屋久島（鹿児島県）や知床（北海道）の面積の九割以上が同保護地域であるとし「世界自然遺産になるために、保護地域になるのがいい」と指摘した。

「プロジェクト推進について町民からは『小中学生の参加を促してほしい』『伐採する木材の有効利用を』などの意見が出された。前田穂町長は『世界遺産登録へ向け、まず九州国立公園への格上げを目指す。』と話をした。



宮崎日日新聞 08.12.07 2008年(平成20年)12月7日

自然遺産への意識を 綾 照葉樹林保護で説明会



綾町で進められている綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）の事業説明会は二日、同町高年者研修センターであった。住民ら約七十人が綾の森林保全に向け意識を高めた。

同プロジェクトは九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会でつくる「連携会議」が中心となり事業を展開している。説明会は住民の関心を高めてもらうと開催し、今回で二回目。

今年三月、綾の森のうち最も原生的な「帯十百六十七ぶが林野」から「森林生態系保護地域」の指定を受けたことについて、同管理局は「国の保護林の中で最も規制が厳しく、原則手付かずの状態に保存される」と説明。

国内の世界自然遺産でもある屋久島（鹿児島県）なども同地域に指定されていることに触れ「自然遺産になるためには、森林生態系保護地域になる必要があるといっても過言でない」と意義を強調した。

意見交換では「地元の盛り上がり欠ける」との指摘もあった。これに対し、綾町照葉樹林文化推進専門家の河野耕三さんは「できることはたくさんあるので、どんどん活動に参加してほしい」と呼び掛けた。

森林生態系保護地域指定の意義などについて解説した事業説明会

町民説明会に 50 人が参加 （宮日・西日本 08.12.06）

宮日. 2009. 2. 8
2009年(平成21年)2月8日

宮 崎 日 報 新 聞

綾の森「大きく育て」 里山復元へ2200本植樹



綾町の里山復元事業「綾の森」は七日、同町入野の町有地(約〇・九㍍)であった。照葉樹林を宮民一体で保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」の一環で、特定非営利活動法人(NPO法人)宮崎文化本舗と同町が共催。同町や宮崎市から参加した約百五十人が約二千二百本の苗木を植え、森林保全に関心を高め

「けんたほ」とは、綾の方言で「元気な子ども」の意味。特に未来の森づくりを担

う子どもたちに、綾の森へ関心を持ってほしいという願いを込めた。四季の変化を感じ

大きく育つように願いを込めて苗木を植える参加者

じ取る事ができる多様性のある森にしようと、苗木はクヌギやコナラ、サザンカやクナシなど二十九種類を用意。参加者は高さ二メートルほどの苗木を植える事に士をこらせた。

親子三人で参加した綾町南侯、主婦奈須尚子さんは「子どもが木に触れると喜ぶので、町中に緑が増えてほしい」、長女の天来ちゃん(五)は「木が大きくなったら森に遊びにきたい」と話していた。

同事業では、今後も必要に応じて苗木を植えていく計画。

剪つてます

◇けんたほの森づくり植林参加者 七日午前10時から綾町入野の町有地で、特定非営利活動法人(NPO法人)宮崎文化本舗主催。クヌギ、コナラ、イロハモミジ、クチナシなどの苗木約2300本を植える。移植してや手をサポート。参加無料。定員200人。申し込み、問い合わせは宮崎文化本舗0985(35)7288。

09. 2. 4 曜日

購読・配達については最寄り

綾の森「大きく育て」里山復元へ2200本植樹(宮日 09.2.8)

宮崎日日新聞 2009.2.20 2009年(平成21年)2月2

森と人の遍歴知って 綾町など写真集製作中



国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林の保護・復元に取り組んでいる「てるはの森の会」(上野登代表)と同町は、森と人のかかわりの姿を伝える写真集の編纂を共同で進めている。森の文化を後世に引き継ぐと同時に、森を身近に感じてもらうことで森林保護意識を喚起する狙い。本年度内に頁、程度の写真集にまとめる計画だ。同町では、昔の森の姿を知る人が高齢化で減っていることや、古い写真が失われるところから写真集の共同製作を企画した。元宮崎農業高教師で同町照葉樹林文化推進専門員の河野耕三さん(60)が写真収集を担当。昨年六月から、町内の自治公民館長や同町に居住歴がある関係者らに森に関連する写真の提供を呼び掛けてきたほか、役場庁舎の倉庫を探するなどしてき

既に昭和三十年代が中心の数百枚を収集。これらの中には、照葉樹林の中を流れる綾・綾南川沿いを走っていた北・綾南川沿いを走っていたトラックでの木材積み出しの様子や、トラックに乗った子どもたち、炭焼きの光景など

森とともに営まれてきた人々の暮らしを切り取ったものも。森の様子や集落の変化が分かる航空写真もあり、それぞれの年代や撮影場所の特定作業を進めている。

写真集の発刊部数やページ数は未定だが、完成後は希望する町民らに無料配布する予定で、河野さんは「森の遍歴を知ることはもちろん、森が人の生活にあったということを証明する大事な資料になる」と話している。

収集した写真の年代や場所を調べる綾町照葉樹林文化推進専門員の河野さん

森と人の遍歴知って 綾町などの写真集製作中 (宮日 09.2.20)



自然と共生 600人誓う 綾で公民館大会 (宮日 09.2.20)

2009. 3. 11 第3種郵便物認可

展示リニューアルへ

綾町は、照葉大吊橋（同町南俣）の近くにある「照葉樹林文化館」の展示を一新する。国内最大規模を誇る照葉樹林の文化を衣・食・住のコーナーごとに分けて詳しく紹介することなどを考えており、町は「照葉樹林と人とのつながりを分かりやすく説明し、その素晴らしさを伝えたい」としている。

同時に、文化館は一九八六（昭和六十一）年三月に建設。イタシやタアといった樹木の標本やバードカービングが展示されており、照葉大吊橋を訪れた観光客らが足を延ばしている。しかし、建設当時からの展示物のレイアウトや説明文はほとんど変わっておらず、改修を求める声が上がっていた。

このため、町、綾の森の保護・復元に取り組む「てるは

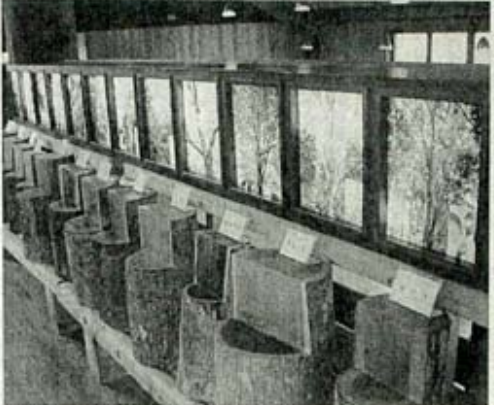
綾・照葉樹林文化館

09年度内定 衣・食・住分け詳しく

の森の会」（上野登代表）など関係者からなる検討委員会（八人）が昨年八月に設置され、リニューアル案を協議。先月まとまった案によると、衣・食・住のコーナーのほか、写真パネルを使い森の雰囲気を出したり、企画展のためのスペースを設けたりする内容となっている。

町は二〇〇九年度一般会計当初予算案に事業費として五百万円を計上しており、今後リニューアル案をもとに具体的に結めるようにしている。

〇九年度内には完成する予定で、町は「綾の照葉樹林の大切さをしっかりと知ってもらえるような展示内容にした



樹木の標本などが展示されている綾町の照葉樹林文化館。展示内容を一新し魅力アップを目指す



発行：平成21年6月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編集：てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>